

## 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等	
<b>I 審議事項等</b>						
<b>1. 規則関係</b>						
提案1	「日本学術会議主催学術フォーラムの選定及び実施について」の一部改正について	会長	B(7)	学術フォーラムの企画案の提出及び決定の手続きについて、一部修正を行うため。	会長	日本学術会議主催学術フォーラムの選定及び実施について
提案2	「土曜日・日曜日及び祝日における講演会、シンポジウム等の開催について」の一部改正について	会長	B(9)	土曜日・日曜日及び祝日における講演会、シンポジウム等の決定の手続きについて、一部修正を行うため。	会長	土曜日・日曜日及び祝日における講演会、シンポジウム等の開催について
提案3	第24期における提言等の案の提出の最終期限について	渡辺副会長	B(11-13)	第24期における提言等の案の提出の最終期限について決定を行う必要があるため。	藤原幹事	—
<b>2. 委員会関係</b>						
提案4	(分野別委員会) (1) 分科会委員の決定 (新規1件)	第二部石川部長	B(15)	令和元年5月30日の第278回幹事会において設置が承認された、臨床医学委員会慢性疼痛分科会における委員を決定する必要があるため。	第二部石川部長	内規18条
提案5	(課題別委員会) 人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会 (1) 設置要綱の一部改正 (設置期限の延長)	人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会委員長	B(17)	人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会について、回答のとりまとめ、回答後フォローアップ活動等のため委員会の設置期限を延長する必要があるため。	会長	内規18条
<b>3. 提言等関係</b>						
提案6	報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について(改訂)」について日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	C(1-42)	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会において、報告をとりまとめたので、関係機関等に対する報告として、これを外部に公表したいため。 <b>※第二部査読</b>	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会 中野委員長	内規3条1項

提案7	提言「持続可能な生命科学のデータ基盤の整備に向けて」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、農学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、薬学委員会委員長、情報学委員会委員長	C(43-74)	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第二部査読	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会 有田委員長、諏訪幹事	内規3条1項
(報告等)	提言「学術の総合的発展をめざして一人文・社会科学からの提言—」インパクト・レポート	第23期第一部附置人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会 佐藤委員長	C(75-119)	平成29年6月1日に公表した提言について、フォローアップのためインパクト・レポートをまとめたため。	—	意思の表出における取扱要領3

#### 4. 国際関係

提案8	令和元年度代表派遣について、派遣者を決定すること	会長	B(19)	令和元年度代表派遣について、派遣者を決定する必要があるため	武内副会長	国際学術交流事業に関する内規19条2項
-----	--------------------------	----	-------	-------------------------------	-------	---------------------

#### 5. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和元年度第3四半期】

提案9	学術フォーラム「科学的エビデンスに基づく『スポーツの価値』の普及の在り方(仮)」の開催について	会長	B(25-26) ※全体概要 B(21-24)	主催：日本学術会議 日時：令和元年10月3日(木) 13:30~16:30 場所：日本学術会議講堂	—	内規別表第1
提案10	学術フォーラム「産学共創がうみだすベンチャー・インキュベーション」の開催について	会長	B(27)	主催：日本学術会議 日時：令和元年10月10日(木) 場所：日本学術会議講堂	—	内規別表第1
提案11	学術フォーラム「学術の未来とジェンダー平等——大学・学協会の男女共同参画推進を目指して」の開催について	会長	B(29-30)	主催：日本学術会議 日時：令和元年11月17日(日) 13:00~17:30 場所：日本学術会議講堂	—	内規別表第1
提案12	学術フォーラム「ゲノム編集技術のヒトへの応用について考える」の開催について	会長	B(31-32)	主催：日本学術会議 日時：令和元年11月24日(日) 場所：日本学術会議講堂	—	内規別表第1

提案13	公開シンポジウム「食の安全と社会；科学と社会の対話」	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	B(33-34)	主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会獣医学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会 日時：令和元年10月5日(土) 13：00～17：30 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案14	公開シンポジウム「地球システムと私たちの生活—人新世時代の想像力（Ⅱ）」	地域研究委員会委員長	B(35-36)	主催：日本学術会議地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人的側面(HD)分科会 日時：令和元年10月12日(土) 13：00～17：00 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認、第三部承認	—	内規別表第1
提案15	公開シンポジウム「岡崎「性暴力事件」から見えてきたもの—日本における性虐待と性暴力」	社会学委員会委員長、法学委員会委員長	B(37-38)	主催：日本学術会議哲学委員会 日時：令和元年10月20日(土) 13：30～17：00 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—	内規別表第1
提案16	公開シンポジウム「日本学術会議の参照基準と大学教育の質保証」	大学教育の分野別質保証委員会委員長	B(39-40)	主催：日本学術会議大学教育の分野別質保証委員会 日時：令和元年10月27日(日) 場所：日本学術会議講堂	—	内規別表第1
提案17	公開シンポジウム「スポーツと脳科学（仮題）」	基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	B(41-42)	主催：日本学術会議基礎医学委員会神経学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会 日時：令和元年11月9日(土) 13:30～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案18	公開シンポジウム「世界哲学の可能性」	哲学委員会委員長	B(43-44)	主催：日本学術会議哲学委員会 日時：令和元年11月30日(土) 13：30～17：00 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—	内規別表第1
提案19	公開シンポジウム「地球環境変動と人間活動—世界各地で急速に深刻化する地球温暖化の影響と対策—」	地球惑星科学委員会委員長	B(45-47)	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会 日時：令和元年12月21日(土) 13：00～17：00 場所：日本学術会議講堂 他2室 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案20	公開シンポジウム「第2期を迎えた地方創生と地域学のパーस्पекティブ」	地域研究委員会委員長	B(49-50)	主催：日本学術会議地域研究委員会地域学分科会 日時：令和元年12月22日(日) 13：00～16：30 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—	内規別表第1

## 6. その他のシンポジウム等

提案21	公開シンポジウム「国語教育の将来—新学習指導要領を問う」	言語・文学委員会委員長	B(51-52)	主催：日本学術会議言語・文学委員会古典文化と言語分科会 日時：令和元年8月1日(木) 13:00～18:00 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—	内規別表第1
------	------------------------------	-------------	----------	---	---	--------

提案22	公開シンポジウム「薬剤師が担う日本の医療と薬学教育」	薬学委員会委員長	B(53-55)	主催：日本学術会議薬学委員会薬剤師機能とキャリアパス分科会 日時：令和元年8月3日(土) 13:00～18:00 場所：日本薬学会長井記念ホール(東京都渋谷区) ※第二部承認	—	内規別表第1
提案23	公開シンポジウム「フューチャー・デザイン：実践の現場から」	経済学委員会委員長、環境学委員会委員長	B(57-58)	主催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所 日時：令和元年8月7日(水) 9:00～17:00 場所：高知工科大学永国寺キャンパス地域連携棟多目的ホール若しくは教育研究棟A214 ※第一部承認、第三部承認	—	内規別表第1
提案24	公開シンポジウム「国立沖縄自然史博物館の実現に向けて：現状と展望」	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	B(59)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同進化学分科会 日時：令和元年8月7日(水) 15:00～17:00 場所：北海道大学高等教育推進機構 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案25	公開シンポジウム「Future Earth 時代における地球表層システム科学と防災・減災研究」	環境学委員会委員長・地球惑星科学委員会委員長	B(61-63)	主催：日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会 日時：令和元年8月7日(水) 10:00～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案26	公開シンポジウム「復興の「いま」と「これから」—社会的モニタリングと震災アーカイブの役割」	社会学委員会委員長	B(65-66)	主催：日本学術会議社会学委員会東日本大震災後の社会的モニタリングと復興の課題検討分科会 日時：令和元年8月10日(土) 11:00～16:30 場所：東北大学さくらホール(宮城県仙台市) ※第一部承認	—	内規別表第1
提案27	公開シンポジウム「土と持続可能な開発目標(SDGs) —アフリカの土・市街地の土—」	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	B(67-68)	主催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同IUS S分科会 日時：令和元年9月2日(月) 13:00～16:00 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案28	公開シンポジウム「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォームの構築 ～どんな基盤をつくり何を目指すか～」	化学委員会委員長	B(69-70)	主催：日本学術会議化学委員会分析化学分科会 日時：令和元年9月4日(水) 13:10～17:00 場所：幕張メッセ 国際会議場3階303会議室(JASIS展併設)(千葉市南区) ※第三部承認	—	内規別表第1
提案29	公開シンポジウム「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs) のためのロバストな農業・食料生産」	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	B(71-72)	主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同CIGR分科会、農業情報システム学分科会、食の安全分科会 日時：令和元年9月5日(木) 13:50～17:20 場所：北海道大学学術交流会館講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1

提案30	東北地区会議公開学術講演会「超高齢社会における看取りを考える(仮題)」の開催について	科学者委員会委員長	B(73-74)	主催：日本学術会議東北地区会議 日時：令和元年9月15日(日) 13:30~16:45 場所：コラッセふくしま (福島県福島市三河南町1番20号)	—	内規別表第1
提案31	公開シンポジウム「SCOR-海洋学会合同シンポジウム「日本の海洋科学：現在と将来」」	地球惑星科学委員会委員長	B(75-76)	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR分科会 日時：令和元年9月25日(水) 13:30~17:10 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案32	公開シンポジウム「林業と建築における木材利用 一川上から川下までの現状と課題一」	農学委員会委員長	B(77-78)	主催：日本学術会議農学委員会林学分科会 日時：令和元年9月30日(月) 15:00~17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案33	公開シンポジウム「翻訳における文化—世界歴史・世界文化・世界社会—(仮)」	第一部部長	B(79-80)	主催：日本学術会議第一部、ドイツ研究振興協会(DFG) 日時：令和元年10月10日(木) 9:30~17:30 10月11日(金) 10:00~13:00 場所：東京大学伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール ※第一部承認	—	内規別表第1
提案34	公開シンポジウム「第11回形態科学シンポジウム：生命科学の魅力を語る高校生のための集い」	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長	B(81-82)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会 日時：令和元年10月22日(火・祝) 13:30~17:30 場所：北海道大学医学部学友会館府ラテホール(札幌市北区) ※第二部承認	—	内規別表第1

## 7. 後援

提案35	国内会議の後援をすること	会長	—	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。  ①第40回日本熱物性シンポジウム 主催：日本熱物性学会 期間：令和元年10月28日(月)~30日(水) 場所：長崎ブリックホール国際会議場 参加予定者数：約230名 申請者：日本熱物性学会会長 平澤良男 ※第三部承認  ②日本体操学会第19回大会 主催：日本体操学会 期間：令和元年9月21日(土)~22日(日) 場所：新潟大学五十嵐キャンパス 申請者：日本体操学会会長 後藤洋子 ※第一部、第二部承認  ③「機械の日」記念行事 主催：一般社団法人日本機械学会 期間：令和元年8月7日(水) 場所：豊洲IHIビル及び芝浦工業大学豊洲キャンパス 参加予定者数：400名 申請者：一般社団法人日本機械学会会長 佐々木直哉 ※第三部承認	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	---	--	----	-----------------

		<p>④2019年URSI日本電波科学会議 主催：電子情報通信学会 期間：令和元年9月5日(木)～6日(金) 場所：電気通信大学キャンパス 参加予定者数：200名 申請者：2019年URSI日本電波科学会議大会委員長・実行委員会委員長 八木谷聡 <b>※第三部承認</b></p> <p>⑤日本地質学会第126回学術大会トピックセッション「大学・博物館における学術標本の未来—人口減少・災害多発社会における標本散逸問題を考える—」 主催：一般社団法人日本地質学会 期間：令和元年9月24日(火)(仮) 場所：山口大学吉田キャンパス 参加予定者数：50名程度 申請者：日本地質学会代議員 堀利栄 <b>※第三部承認</b></p> <p>⑥第16回中高生南極北極科学コンテスト及び南極北極ジュニアフォーラム2019 主催：情報・システム研究機構国立極地研究所 期間：令和元年9月6日(金)～11月10日(日) 場所：情報・システム研究機構国立極地研究所大会議室 申請者：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所長 中村卓司 <b>※第三部承認</b></p>	
--	--	--	--

●日本学術会議主催学術フォーラムの選定及び実施について（平成24年2月20日日本学術会議第146回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>(略)</p> <p>2 テーマの選定まで</p> <p>② 各部又は委員会の企画案を受領する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画案の提案者は部長名又は委員会委員長名のみとし、分科会等が中心となって提案するものであっても親委員会の委員長名による提案とする。<u>なお、提案に当たっては、事前に関係部の承認を得ることとする。</u></li> </ul>	<p>(略)</p> <p>2 テーマの選定まで</p> <p>② 各部又は委員会の企画案を受領する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画案の提案者は部長名又は委員会委員長名のみとし、分科会等が中心となって提案するものであっても親委員会の委員長名による提案とする。</li> </ul>
<p>(略)</p> <p>⑥ なお、上記件数の限度を上回る場合 <u>においても、幹事会において協議のうえ、企画を決定する。</u></p>	<p>(略)</p> <p>⑥ なお、上記件数の限度を上回る場合は、企画案につき、<u>抽選を行い、企画を決定する。</u></p>
<p>(略)</p> <p style="text-align: right;">別紙 1</p>	<p>(略)</p> <p style="text-align: right;">別紙 1</p>
<p>(略)</p> <p>6 <u>関係部の承認の有無</u></p>	<p>(略)</p> <p><u>(新設)</u></p>
<p>7 その他希望事項（開催場所等）</p>	<p>6 その他希望事項（開催場所等）</p>

注) 1 企画案の提出に当たっては、上記1～7の項目をできるだけ詳細に記入してください。特に講演を企画するに至った企画趣旨は必ず記入してください。

記入漏れのある場合は、書類不備扱いとなり、審議されない場合があります。

(略)

注) 1 企画案の提出に当たっては、上記1～6の項目をできるだけ詳細に記入してください。特に講演を企画するに至った企画趣旨は必ず記入してください。

記入漏れのある場合は、書類不備扱いとなり、審議されない場合があります。

(略)

附則（令和元年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。



提案 2

●土曜日・日曜日及び祝日における講演会、シンポジウム等の開催について（平成28年6月24日日本学術会議第230回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正 後	改正 前
<p>(略)</p> <p>2 手続</p> <p>(1) 別表1に掲げる幹事会の前月末までに希望を受付け、同幹事会において内容が不十分なもの等を除いた上で決定する（多数の場合 <u>においても、幹事会において協議のうえ、企画を決定する</u>）。</p> <p>(略)</p>	<p>(略)</p> <p>2 手続</p> <p>(1) 別表1に掲げる幹事会の前月末までに希望を受付け、同幹事会において内容が不十分なもの等を除いた上で決定する（多数の場合は、<u>抽選を行う</u>）。</p> <p>(略)</p>

附則（令和元年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）  
この決定は、決定の日から施行する。



(案 1)

## ●第 2 4 期における提言等の案の提出の最終期限について

〔 令 和 元 年      月      日 〕  
〔 日本学術会議第      回幹事会決定 〕

期末における集中を回避し、幹事会での十分な審議期間を確保するため、第 2 4 期における勧告、要望、声明、提言、報告及び回答（以下「提言等」という。）の案の提出の最終期限については、以下のとおりとする。

なお、本決定における「提言等の案」とは、査読を完了した案をいう。

1. 部及び分野別委員会並びにそれらの下の分科会（以下「部等」という。）は、令和 2 年 4 月 3 0 日（厳守）までに、提言等の案を事務局に提出する。

なお、提言等の案の提出が令和 2 年 4 月 3 0 日に間に合わなかった場合、部等は、第 2 5 期の各部及び委員会に対し、担当する分科会の設置を含め、当該提言等の案に関する申し送りをすることが出来る。

2. 幹事会附置委員会、機能別委員会及び課題別委員会並びにそれらの下の分科会は、令和 2 年 7 月 3 1 日（厳守）までに、提言等の案を事務局に提出する。

## 附 則

（施行期日）

1 この決定は、決定の日から施行する。

（この決定の失効）

2 この決定は、令和 2 年 9 月 3 0 日限り、その効力を失う。

## (案2)

### ●第24期における提言等の案の提出の最終期限について

〔令和元年 月 日〕  
〔日本学術会議第 回幹事会決定〕

期末における集中を回避し、幹事会での十分な審議期間を確保するため、第24期における勧告、要望、声明、提言、報告及び回答（以下「提言等」という。）の案の提出の最終期限については、以下のとおりとする。

なお、本決定における「提言等の案」とは、査読を完了した案をいう。

1. 部及び分野別委員会並びにそれらの下の分科会（以下「部等」という。）は、遅くとも令和2年4月30日までに、提言等の案を事務局に提出する。
2. 幹事会附置委員会、機能別委員会及び課題別委員会並びにそれらの下の分科会は、遅くとも令和2年7月31日までに、提言等の案を事務局に提出する。
3. 1. 及び2. に定める期限までに提出がなかった場合は、今期中は幹事会に付議出来ないことがあるため留意すること。

#### 附 則

（施行期日）

- 1 この決定は、決定の日から施行する。

（この決定の失効）

- 2 この決定は、令和2年9月30日限り、その効力を失う。

(説明資料)

## 期末の提言等の提出期限等の事前通知について

### 1. 経緯

4月25日の科学と社会委員会・課題別審議等査読分科会において、「提言等の発出については、査読への提出から半年程度かかる旨を事前にアナウンスした方が良いのではないか」との意見があった。

これを受けて、前期は提言等の提出期限を定めたか、今期について申し合わせ等があるか事務局が調べたところ、以下のことがわかった。

第24期に対応した現行の「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」(最終改正平成30年1月25日幹事会決定)においては「期末においては、集中を回避し、幹事会での十分な審議期間を確保するため、提言等の案の提出期限を、平成32年3月31日までに改めて幹事会で定めるものとします。」としている。

第23期末の提出期限等については、以下のとおり。

- ・第23期に対応した当時の「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」においては、「期末における集中を回避し、幹事会での十分な審議期間を確保するため、報告書等の案は、最終的に遅くとも平成29年4月30日までに事務局まで完結した案文を御提出ください。」とされていた。
- ・上記を受け、第三部では、平成29年4月末までに査読を終えるよう、部会で改めて周知を行った。
- ・第一部、第二部は部会での周知は特段なかった模様(各委員会等に対する各事務局担当者からの注意喚起は適宜行っている)。
- ・実績として、第23期最後の平成29年9月22日の幹事会にも提言がかかっているため、査読期間等を考慮すると、実際には同年8月半ば頃までは提言等の査読への提出があったものと考えられる。

### 2. 提出期限の設定に関する方針

- ・上記の「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」に従うならば、今期も提出期限を設けることになる。(あるいは少なくとも、設けるかどうかを幹事会で決定する必要がある。)
- ・「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」は、分野別委員会とその下の分科会を対象としているが、問題は幹事会への提言等の審議の集中という点にあるため、機能別委員会・課題別委員会・幹事会附置委員会及びそれらの下の分科会についても検討する必要がある。

### 3. 提出期限の設定に関する提案

- ・分野別委員会・分科会は4月締切、機能別委員会・課題別委員会・幹事会附置委員会及びそれらの下の分科会は7月締切とし、いずれも(「原則」ではなく)「厳守」とする。
- ・あわせて、以下の補足説明を加える。  
「分野別委員会・分科会は、4月締切に間に合わなかった場合、次期の期首(その年の10～11月)の幹事会に向けて提言等を提出することが可能である。その場合、その分科会を期首に再設置する手続きが前もって必要になる(全ての分科会は期が終了するとともに一度廃止されるため)。」



【委員会及び分科会】

○委員の決定（新規 1 件）

（臨床医学委員会慢性疼痛分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
越智 光夫	広島大学学長・整形外科教授	第二部会員
紺野 慎一	福島県立医科大学医学部整形外科学講座主任教授	連携会員
戸山 芳昭	慶應義塾大学名誉教授、一般財団法人国際医学情報センター理事長	連携会員
村井 俊哉	京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座（精神医学）教授	連携会員





人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会設置要綱（平成30年6月28日日本学術会議第265回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
(略) (設置期限) 第4 委員会は、 <u>令和元年12月31日</u> まで置かれるものとする。 (略)	(略) (設置期限) 第4 委員会は、 <u>平成31年6月30日</u> まで置かれるものとする。 (略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

※ 改正理由

人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会について、回答のとりまとめ、回答後フォローアップ活動等のため委員会の設置期限を延長する必要があるため。



## 令和元年度代表派遣実施計画における派遣者の決定について

以下のとおり、令和元年度代表派遣実施計画における派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
1	第 23 回アジア社会科学研究 協議会連盟 (AASSREC) 総会	9 月 24 日 ～ 9 月 25 日	ハノイ (ベトナム)	町村 敬志 第 1 部会員 (一橋大学大学院社会学研究科教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第 275 回幹事 会(平成 31 年 2 月 28 日)にて承認済 み。
2	第 23 回アジア社会科学研究 協議会連盟 (AASSREC) 総会	9 月 24 日 ～ 9 月 25 日	ハノイ (ベトナム)	中野 聡 特任連携会員 (一橋大学大学院社会学研究科教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第 275 回幹事 会(平成 31 年 2 月 28 日)にて承認済 み。



**5. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等**  
**【令和元年度第3四半期】**

<概要>

**1. 日本学術会議主催学術フォーラム**

- (1) 経費負担を要するものは、原則として 年間10回程度  
 (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで  
 (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和元年度第3四半期】 全4件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案9 [p. 25-26]	科学的エビデンスに基づく『スポーツの価値』の普及の在り方(仮)	令和元年 10月3日 (木)	日本学術 会議講堂	要	要
2	提案10 [p. 27]	産学共創がうみだすベンチャー・インキュベーション	令和元年 10月10日 (木)	日本学術 会議講堂	要	要
3	提案11 [p. 29-31]	学術の未来とジェンダー平等——大学・学協会の男女共同参画推進を目指して	令和元年 11月17日 (日)	日本学術 会議講堂	要	要
4	提案12 [p. 33-34]	ゲノム編集技術のヒトへの応用について考える	令和元年 11月24日 (日)	日本学術 会議講堂	要	要

**2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等**

- (1) 各年度32回まで、及び四半期ごとにおおむね8回  
 (ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和元年度第3四半期】 全8件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
1	提案13 [p. 35-36]	食の安全と社会；科学と社会の対話	令和元年 10月5日(土)	日本学術会議 講堂

2	提案14 [p. 37-38]	地球システムと私たちの生活—人新世時代の想像力(Ⅱ)	令和元年 10月12日(土)	日本学術会議 講堂
3	提案15 [p. 39-40]	岡崎「性暴力事件」から見えてきたもの—日本における性虐待と性暴力	令和元年 10月20日(土)	日本学術会議 講堂
4	提案16 [p. 41-42]	日本学術会議の参照基準と大学教育の質保証	令和元年 10月27日(日)	日本学術会議 講堂
5	提案17 [p. 43-44]	スポーツと脳科学(仮題)	令和元年 11月9日(土)	日本学術会議 講堂
6	提案18 [p. 45-46]	世界哲学の可能性	令和元年 11月30日(土)	日本学術会議 講堂
7	提案19 [p. 47-49]	地球環境変動と人間活動—世界各地で急速に深刻化する地球温暖化の影響と対策—	令和元年 12月21日(土)	日本学術会議 講堂
8	提案20 [p. 51-52]	第2期を迎えた地方創生と地域学のパーспекティブ	令和元年 12月22日(日)	日本学術会議 講堂

(参考) -----

### ■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム(平日5件/土日4件) 全9件 残り:1件

(内訳) ※現在の9件中、8件は経費又は人的負担要

		第1四半期 (4月~6月)	第2四半期 (7月~9月)	第3四半期 (10月~12月)	第4四半期 (1月~3月)
学術フォーラム	(土日)	0	2	2	
	(平日)	2	1	2	
合計		2	3	4	

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全10件 残り：13件  
（内訳）

	関連部等	第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
シンポジウム	第一部	2	0	4	
	第二部	1	2	2	
	第三部	1	1	1	
	若手アカデミー	0	0	0	
	課題別	0	0	1	
学術フォーラム（土日）		0	2	2	
合計		4	5	10	

■承認済み案件一覧

1. 学術フォーラム

	テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	危機に瀕する学術情報の現状と その将来 Part2	平成31年 4月19日 (金)	日本学術会議講堂	要	要
2	産学共創の視点から考える人材 育成	令和元年 5月22日 (水)	日本学術会議講堂	要	要
3	フューチャー・アースと学校教育： 持続可能な社会と海洋の実現を 目指して	令和元年 9月8日 (日)	日本学術会議講堂	要	要
4	自動車の自動運転の推進と社会的 課題について— 移動の本能 と新しい社会のデザイン — (案)	令和元年 9月16日 (月・祝)	日本学術会議講堂	要	要
5	いま問われる物理教育改革—より 効果的な理工学教育をめざして	令和元年 9月27日 (金)	日本学術会議講堂	不要	不要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

	テーマ	開催日時	主催委員会等
1	「男女がともにつくる民主政治」 を展望する—「政治分野における 男女共同参画推進法」の意義—	平成31年 4月6日 (土)	法学委員会ジェンダー法分科会

2	「産業動物と食の観点からの One health」	令和元年 5月25日 (土)	食料科学委員会獣医学分科会、農学委員 会・食料科学委員会合同食の安全分科会、 食料科学委員会畜産学分科会
3	「子どもの戸外遊びが消滅！？ 遊びへの社会的介入としての移 動式遊び（プレーバス）」	令和元年 6月1日 (土)	心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・ 健康・生活科学委員会・環境学委員会・土 木工学・建築学委員会合同子どもの成育環 境分科会
4	「横行する選考・採用における 性差別：統計からみる間接差別 の実態と課題」	令和元年 6月8日 (土)	社会学委員会ジェンダー研究分科会
5	ゲノム編集生物の社会受容につ いて考える	令和元年 7月6日 (土)	農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組 換え作物分科会
6	科学的知見の創出に資する可視 化(2)：「新しい可視化パラダ イム」	令和元年 7月13日 (土)	総合工学委員会科学的知見の創出に資する 可視化分科会
7	日本旧石器人研究の発展：沖 縄の現場から	令和元年 7月28日 (日)	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 自然人類学分科会



日本学術会議主催学術フォーラム「科学的エビデンスに基づく『スポーツの価値』の普及の在り方（仮）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：調整中
3. 後 援：調整中
4. 日 時：令和元年10月3日（木）13：30～16：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：調整中

7. 開催趣旨：

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を目前に控え、学術の観点からスポーツの在り方を考える機会が訪れている。スポーツ庁は、東京オリンピック・パラリンピック後を視野に入れて「第2期スポーツ基本計画」を策定し、スポーツ振興策を推進している。この施策の基本は、国民に科学的エビデンスや知見に基づく「スポーツの価値」を普及・啓発することにある。ルール化された身体運動という意味でのスポーツは、現代社会を構成する重要な要素であるが、その在り方が時代とともに変化することに着目する必要がある。それゆえに、スポーツは、スポーツ独自の問題にとどまらず、科学や技術、思想、社会、人びとの生き方、共感の在り方と深くつながり、学術の観点からの再検討が必要である。このような状況の中、スポーツ庁長官より、科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関して、学術会議に審議依頼があった。本フォーラムでは、スポーツ庁からの依頼により組織された、科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会の活動を紹介し、スポーツにおけるエビデンスの重要性、スポーツとメンタルヘルス、スポーツの現場について話題提供を行う。また、「日本社会とスポーツのこれから」をテーマに、著名なパネリストを交えてディスカッションを行う。

8. 次 第：

総合司会：

田原淳子（日本学術会議連携会員、国士舘大学体育学部教授）

【開会の挨拶・科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会の紹介】

渡辺美代子（日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）

【基調講演1】「スポーツ庁の紹介・社会におけるスポーツの役割（仮）」  
調整中（スポーツ庁）

【基調講演2】「スポーツにおけるエビデンスの重要性（仮）」  
調整中（日本スポーツ協会）

【基調講演3】「スポーツとメンタルヘルス（仮）」  
神尾陽子（日本学術会議第二部会員、一般社団法人 発達障害専門センター 代表理事、お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所人間発達基礎研究部門 客員教授、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 児童・予防精神医学研究部 客員研究員）

【基調講演4】「スポーツの現場－トップアスリートの能力，スポーツの普及，スポーツにおけるコーチング－（仮）」  
田嶋幸三（日本学術会議特任連携会員、公益財団法人日本サッカー協会会長）

【パネルディスカッション】「日本社会とスポーツのこれから－Society 5.0，移民のインクルージョンにおけるスポーツの役割－（仮）」

司会：渡辺美代子（上掲）

パネリスト：

喜連川優（日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授）

高瀬堅吉（日本学術会議連携会員、自治医科大学大学院医学研究科教授）

田嶋幸三（上掲）

山極壽一（日本学術会議会長・第二部会員、京都大学総長）

山口香（日本学術会議特任連携会員、筑波大学体育系教授）

來田享子（日本学術会議連携会員、中京大学スポーツ科学部教授）

（下線の講演者は、学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム「産学共創がうみだすベンチャー・インキュベーション」の開催について

1. 主 催：日本学術会議

2. 共 催：調整中

3. 後 援：調整中

4. 日 時：令和元年10月10日（木）

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会等の開催：調整中

7. 開催趣旨：

科学と社会委員会 政府・産業界政府・産業界連携分科会はその緊急性を考慮して、大学と産業界両方の関係者が対等に議論し、近未来へ向けて双方が納得し推進できる提言を昨年11月に発した。この提言をもとに、今年3月7日にはシンポジウム「Society 5.0に向けた産学共創のあり方」を開催し、今年5月22日には学術フォーラム「産学共創の視点から考える人材育成」を開催した。これらの議論をもとに、より広い産学関係者がそれぞれ講演をし、その講演をもとにこれからの産学共創の成果となるベンチャー・インキュベーションについて議論する。

8. 次 第：

開催挨拶・趣旨

山極壽一（日本学術会議会長・第二部会員、京都大学総長）

講演 東大発ベンチャーの概要

五神真（日本学術会議第三部会員、東京大学総長）（予定）

講演 地方大学発ベンチャーの現状

調整中

講演 新しいインキュベーションの流れ

小林いずみ（日本学術会議特任連携会員、ANA ホールディングス株式会社、三井物産株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ社外取締役）（予定）

パネル討論

ベンチャー起業家、インキュベーション事業家、大学発ベンチャー関係者の討論

（下線の講演者は、学術会議関係者）



日本学術会議主催学術フォーラム  
「学術の未来とジェンダー平等——大学・学協会の男女共同参画推進を目指して」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：調整中
3. 後 援：調整中
4. 日 時：令和元年11月17日（日）13：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：調整中

7. 開催趣旨：

日本のジェンダー平等達成度は低い。政治・経済の意思決定過程に女性がほとんど参加していないからである。しかし、この状況は学術の世界でもさほど変わらない。本学術フォーラムでは、学術の未来を展望するために、大学・研究機関や学協会におけるジェンダー平等（男女共同参画）をいかに推進するか、また、ジェンダー平等を阻む壁（とくにアンコンシャス・バイアス）をいかに克服するかについて議論する。

科学者委員会男女共同参画分科会（アンケート検討小分科会）では、全国ダイバーシティ・ネットワーク組織と協力して、2019年2～3月に全国の大学・研究機関を対象に男女共同参画の現状に関するアンケート調査を実施した。8月には、学協会及び研究者個人に対するアンケートも実施予定である。これらの成果をふまえ、本学術フォーラムでは、大学のグッド・プラクティスの紹介も含め、学術におけるジェンダー平等推進の課題と展望を示したい。

また、日本学術会議初の企画となる女性学長の座談会では、本学術フォーラムの総括として、「学術の未来と大学の未来」をめぐる課題について語り合っていただく。

8. 次 第：

13:00-13:05 開会挨拶

藤井良一（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構長）

13:05-13:20 挨拶

山極壽一（日本学術会議会長・第二部会員、京都大学総長）（ビデオ出演）

文部科学省関係者など

13:20-13:40 趣旨説明（アンケート結果紹介を含む）

三成美保（日本学術会議副会長・第一部会員、奈良女子大学副学長・教授（研究生院生活環境科学系））

13:40-14:35 第I部 大学・研究機関における男女共同参画の現状と課題

報告1 全国ダイバーシティ・ネットワーク組織の活動（@15）

工藤眞由美（日本学術会議連携会員、大阪大学理事・副学長）

報告2 企業が求める女性人材（@10）

（企業関係者）

報告3 グッド・プラクティス紹介——アンケート結果から

3大学程度（国立大学1・公立大学1・私立大学1）（@10分）

<休憩10分>

14:45-15:25 第Ⅱ部 研究力強化のための男女共同参画—学協会の取り組みから

報告1 学術におけるアンコンシャス・バイアス

（大坪氏を軸に調整）

報告2 理工系学協会

熊谷日登美（日本学術会議第二部会員、日本大学生物資源科学部教授）

報告3 人文社会系学協会

（ギース代表）

報告4 医学系学協会

名越澄子（日本学術会議第二部会員、埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科教授）

15:25-16:20 第Ⅲ部 座談会（フロアとの討論）学術におけるダイバーシティ推進—  
—何が必要か？

工藤眞由美（上掲）

学協会関係報告者4名（第一報告者・熊谷日登美・ギース代表・名越澄子）

若手アカデミーから推薦

ファシリテーター

伊藤公雄（日本学術会議第一部会員、京都産業大学現代社会学部客員教授（ダイバーシティ推進室長兼任））

<休憩5分>

16:25-17:25 <座談会>女性学長が語る大学の未来—男女共同参画の視点から

高橋裕子（日本学術会議連携会員、津田塾大学学長、学芸学部教授）

田中優子（法政大学総長）

林佳世子（東京外国語大学学長）

ファシリテーター 三成美保（上掲）

17:25-17:30 閉会挨拶

野尻美保子（日本学術会議第三部会員、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授）

総合司会

望月眞弓（日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学病院薬剤部長、慶應義塾大学薬学部薬学研究科教授）

（下線の講演者は、学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム「ゲノム編集技術のヒトへの応用について考える」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：調整中
3. 後 援：調整中
4. 日 時：令和元年11月24日（日）
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：調整中

7. 開催趣旨：

ゲノム編集技術をヒト受精胚・生殖細胞へ応用することは、様々な問題点があることから、学術的にも、社会的にも容認されていない。一方、2018年11月に中国で、ゲノム編集を施された双子が誕生したというニュースが世界を駆け巡り、その実施が後日確認されている。このような状況の下で、ゲノム編集技術の利用、その規制の在り方、そして倫理的問題に関する議論が国内外で行われている。日本学術会議は、このたび、ゲノム編集技術のヒト受精胚・生殖細胞への応用に関するフォーラムを開催し、ゲノム編集技術を取り巻く現在の情勢を共有すると共に、将来に向けての様々な立場からの活発な議論を展開したい。

8. 次 第：

司会：武田洋幸

（日本学術会議第二部幹事・会員、東京大学大学院理学系研究科長・教授）

開会挨拶：三成美保（日本学術会議副会長・第一部会員、奈良女子大学副学長・教授  
（研究院生活環境科学系））

趣旨説明：武田洋幸（同上）

講演1： 「ゲノム編集技術の現状と課題」

阿久津英憲（日本学術会議特任連携会員、国立研究開発法人国立成育医療研究センター  
一研究所再生医療センター生殖医療研究部部長）

講演 2 : 「諸外国および WHO における検討の現状」

加藤和人 (日本学術会議特任連携会員、大阪大学大学院医学系研究科教授)

講演 3 : 政府での検討状況 (仮題)

前澤綾子 (文部科学省生命倫理・安全対策室長、内閣府政策統括官 (科学技術・イノベーション担当) 付企画官)

講演 4 : 「日本の立法的対応の前提と方法論」

高山佳奈子 (日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授)

————— (休憩 15分)

講演 5 : 医療の立場から — 臨床現場 (または民間) から (予定)  
調整中

講演 6 : 「ヒトの遺伝子改変是非論の争点」 (仮題)

松原洋子 (日本学術会議連携会員、立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)

講演 7 : 「科学的生命観と人間の〈いのち〉」 (仮題)

香川知晶 (日本学術会議連携会員、山梨大学名誉教授、同大学研究員)

総合討論

司会 :

石川冬木 (日本学術会議第二部部長会員、京都大学大学院生命科学研究科教授)

登壇者については現在調整中

閉会挨拶: 田坂さつき (日本学術会議連携会員、立正大学文学部哲学科教授)

(下線の講演者は、学術会議関係者)



公開シンポジウム「食の安全と社会；科学と社会の対話」開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会獣医学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会
2. 共 催：未定
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和元年10月5日（土） 13：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定あり  
(食の安全分科会、獣医学分科会、遺伝子組換え作物分科会)

7. 開催趣旨：

食の安全は、消費者の関心が最も高いものの一つであるが、消費者と科学者の意識調査を行うと乖離が大きいものの一つでもある。本シンポジウム（ワークショップ）では、3つの具体的事例を取り上げながら、どのように消費者と科学者とのコミュニケーションをはかるのかを考えてみたい。

8. 次第：

13時00分～13時05分

開会挨拶

石塚 真由美（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授）

13時05分～13時40分

「東日本大震災における食料問題の課題；フードチェーンおよびフードセキュリティの視点から」

澁澤 栄（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

13時40分～14時15分

「食用動物における抗菌薬の利用と耐性菌」

田村 豊（日本学術会議連携会員、酪農学園大学動物薬教育研究センター教授）

14時15分～14時50分

「ゲノム編集食品」

佐藤文彦（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

休憩 14時50分～15時05分

15時05分～15時40分

「食品安全に関わるリスクコミュニケーション ～ キーワードは信頼 ～」

鬼武一夫 (日本生活協同組合連合会 品質保証本部)

15時40分～16時40分

5) パネルディスカッション「情報リテラシーを如何に深めるか」

コーディネーター

西澤 真理子 (日本学術会議連携会員、株式会社リテラシー代表取締役)

16時40分～16時45分

閉会の辞

関崎 勉 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「地球システムと私たちの生活ー人新世時代の想像力（Ⅱ）」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人的側面（HD）分科会
2. 後 援：地理学連携機構（予定）
3. 日 時：令和元年 10 月 12 日（土）13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会等の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

当分科会は平成 29 年 7 月に公開シンポジウム「地球環境変化研究の転換期における人的側面研究（HD）の推進に向けて」を開催、更に平成 30 年 12 月には公開シンポジウム「地球システムと私たちの生活ー人新世時代の想像力」を開催するなど、我が国で遅れていた人的側面からの持続可能性向上研究を振興し、将来社会の在り方を追及してきた。今回の公開シンポジウムは、このような一連の活動の一環として実施するものであり、国連の SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けて国際学術会議（ISC）やフューチャー・アース計画が取組みを本格化させている折、種々の学術研究領域において SDGs に関してこれまでどのような取組みがなされ、どのような成果があり、将来に向けてどのような課題と展望を有しているかなどを紹介し、領域間の相互理解の増進、地球環境変化の人的側面研究の推進と社会貢献につなげたい。そのために、話題提供者とフロアとが一緒にディスカッションするための時間を確保する。

7. 次 第：

総合司会：

亀山 康子（日本学術会議連携会員、国立環境研究所社会環境システム研究センター副センター長）

13:00～13:05 開会挨拶

石川 義孝（日本学術会議第一部会員、帝京大学経済学部教授）

13:05～13:15 趣旨説明

氷見山幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）

13:15～13:35 農学から SDGs への貢献

櫻井 武司（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:35～13:55 乾燥地研究から SDGs への貢献

篠田 雅人（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研究科教授）

13:55～14:15 リモートセンシング研究からの SDGs への貢献

近藤 昭彦（日本学術会議連携会員、千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授）

14:15～14:35 環境保健学から SDGs への貢献

中村 桂子（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院国際保健医療事業開発学教授）

- 14:35～14:45 休憩
- 14:45～15:05 KLaSiCa (社会変革のための学習プロジェクト) から SDGs への貢献  
阿部 健一 (日本学術会議特任連携会員、総合地球環境学研究所教授)
- 15:05～15:25 ESD から SDGs への貢献  
阿部 治 (立教大学 ESD 研究所長・同社会学部教授)
- 15:25～15:45 地理学から SDGs への貢献  
岡本 耕平 (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研究科教授)
- 15:45～16:05 エネルギー研究から SDGs への貢献  
吉田謙太郎 (日本学術会議連携会員、九州大学エネルギー研究教育機構教授)
- 16:05～16:55 ディスカッション  
山口しのぶ (日本学術会議連携会員、東京工業大学学術国際情報センター教授)
- 16:55～17:00 閉会挨拶  
春山 成子 (日本学術会議第三部会員、三重大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無：第一部承認、第三部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「岡崎「性暴力事件」から見えてきたもの—日本における性虐待と性暴力」の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会、ジェンダー政策分科会、法学委員会ジェンダー法分科会
2. 共 催： 未定
3. 後 援： 未定
4. 日 時：令和元年 10 月 20 日（日）13：30～17：00
5. 場 所：日本学術会議大講堂
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：平成 31 年 4 月、名古屋地方裁判所岡崎支部で一つの「無罪判決」が下された。当時未成年だった被害女性が、中学 2 年生から実の父親から性的虐待を受け続けてきたという事件に対するものである。この判決には、広範な人々から「違和感」が提起されている。本シンポジウムは、この「違和感」を多様な視点から検討することにより、日本社会に潜む性差別の深層に迫ろうとするものである。
8. 次 第：
  - 13：30～13:05 開会  
 総合司会 伊藤 公雄（日本学術会議第一部会員、京都産業大学現代社会客員教授）
  - 13:05～13:15 開会の挨拶  
遠藤 薫（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授）
  - 13：15 法学の立場から  
後藤 弘子（日本学術会議連携会員、千葉大学法学部教授）
  - 13：45 歴史社会学の立場から  
小浜 正子（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）
  - 14：15 実践の立場から  
 未定
  - 14：45－15：00 （ 休憩 ）

15：00 総合討論

(司会) 柘植 あづみ (日本学術会議連携会員、明治学院大学社会学部 教授)

(コメンテーター) 上野 千鶴子 (日本学術会議連携会員、立命館大学先端総合学術研究科特別招聘教授)

16:50 閉会の挨拶

本田 由紀 (日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授)

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「日本学術会議の参照基準と大学教育の質保証」の開催について

1. 主 催：日本学術会議大学教育の分野別質保証委員会、科学者委員会学術と教育分科会（予定）
2. 後 援：文部科学省（予定）
3. 日 時：令和元年10月27日（日）13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂

5. 開催趣旨：

平成20年に文部科学省から審議依頼を受けたことを契機として、日本学術会議は「大学教育の分野別質保証」に取り組み、現在までに32の学問分野において教育課程編成上の参照基準を策定した。10年以上にわたる学術会議の取組みによって、主要な学問分野の参照基準がほぼ出そろいつつある。

その一方で、いくつかの調査を通じて、各大学等が参照基準を必ずしも積極的に活用していない状況にあることも判明している。平成29年度に、いわゆる3つのポリシーの策定とその公表が各大学に義務付けられた際も、ポリシーの策定のために参照基準を活用した大学は少数にとどまった。

元来参照基準は、各大学の教育の自主性・自律性を可能な限り尊重することを基本にしており、このため、カリキュラム等の標準的・モデル的な具体像を示すのではなく、各学問分野の基本的な理念や方法論を、学士課程教育の文脈の中に位置付けながら、丁寧に説明することに重点を置いている。

こうした特性を持つ参照基準と、各大学での質保証に関する実際の取り組みとの距離があるとすれば、それはなぜなのか。どうしたら両者をつなぐことが可能なのか。この問いに答えるために、本シンポジウムは、新しい動きも紹介しつつ、今日の大学教育が実際に直面している様々な課題に対応する上で、参照基準が存在することの意味を検証し、その具体的な活用の在り方を提案する。

6. 次 第（予定）：

13：00 開会の挨拶

山極 壽一（日本学術会議会長、大学教育の分野別質保証委員会委員長、京都大学総長）（※山極会長は当日ご都合がつかないことから、可能であれば質保証委員会の副委員長である三成副会長にお願いできればと思っています。）

13：05 講演（15分）

「日本学術会議の教育課程編成上の参照基準について」（仮題）

北原 和夫（日本学術会議特任連携会員、国際基督教大学名誉教授）

13 : 20 講演 (15 分)

「各大学での質保証への取り組みと参照基準の活用状況」(仮題)

吉田 文 (日本学術会議連携会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

13 : 35 講演 (15 分)

「参照基準に対する現場の大学教員の受け止め」(仮題)

広田 照幸 (日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授)

13 : 50 講演 (15 分)

「海外での大学教育の質保証 - 参照基準との関わりを中心に」(仮題)

深堀 總子 (九州大学教育改革推進本部企画・評価部門教授)

14 : 05 講演 (40 分)

「九州大学における参照基準を活用した教育課程の編成」(仮題)

※交渉中

14 : 45 ~ 14 : 55 休憩

14 : 55 講演 (20 分)

「学習成果を重視した大学教育の質保証と参照基準」(仮題)

松下 佳代 (日本学術会議会員、京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

※交渉中

15 : 15 パネルディスカッション (80 分)

「教育の質保証と参照基準 - 大学教育とアカウンタビリティ」

パネリスト : 深堀、松下、九州大学

高祖 敏明 (日本学術会議特任連携会員、聖心女子大学学長、  
上智大学名誉教授)、

大学改革支援・学位授与機構 (※交渉中)

司会 : 吉田、広田

16 : 35 会場からの質問 (20 分)

16 : 55 閉会の挨拶 (5 分)

北原もしくは高祖

司会 : 姉川恭子 (早稲田大学大学総合研究センター講師)

(下線の講演者等は、主催委員会委員)



公開シンポジウム「スポーツと脳科学（仮題）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会神経学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会
2. 共 催：（検討中）
3. 後 援：日本脳科学関連学会連合（予定）
4. 日 時：令和元年11月9日（土）13：30～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：
 

東京オリンピックに向けてスポーツの振興に社会の関心が高まっているが、スポーツの良い面、注意を要する面について脳科学的な論考を社会に発信することが重要であると考え、両分科会合同で本公開シンポジウムを開催する。

8. 次 第：

司会 伊佐 正（日本学術会議第二部会員、京都大学医学研究科教授）

13：30 挨拶と趣旨説明

岡部 繁男（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院医学研究科教授）

講演

13：45 アスリートの脳について

中澤公孝（東京大学総合文化研究科教授）または野崎大地（東京大学教育学研究科教授）（交渉検討中）

14：15 パラアスリートの脳について

内藤 栄一（大阪大学大学院医学研究科招へい教授・国立研究開発法人情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター（CiNeT）研究マネージャー）（交渉検討中）

14：45 アスリートの「メンタル」とは何か？

桑田 真澄（元プロ野球選手・野球解説者）（交渉検討中）

15：15 休憩

15：30 アスリートの「ジストニア」について

望月 秀樹（大阪大学大学院医学系研究科教授）（交渉検討中）

16 : 00 アスリートの脳外傷について

須原 哲也 (国立研究開発法人量子科学研究機構脳機能イメージング研究部部长) (交渉検討中)

総合討論

16 : 30 西田 眞也 (日本学術会議第二部会員、京都大学情報学研究科教授)

川人 光男 (日本学術会議第二部会員、国際電気通信基礎技術研究所フェロー)

17:00 閉会

山脇 成人 (日本学術会議第二部会員、広島大学特任教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

## 公開シンポジウム「世界哲学の可能性」の開催について

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会
2. 共 催：日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合
3. 日 時：令和元年 11 月 30 日（土）13：30～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会等の開催：開催予定

## 6. 開催趣旨：

「哲学」の営みはこれまで、古代ギリシアに始まる「西洋哲学・倫理学」を中心に理解され、それとは別に「中国哲学」「インド哲学・仏教学」「日本哲学・思想史」「宗教学・比較思想」などが研究されてきました。近年そういった分断された枠組みを超えた「世界哲学」の構築が話題となっており、異なる文化伝統が並存する日本ならではの役割が期待されています。果たして人間に普遍的な哲学は存在するのか。世界という視点から実践する哲学が、独自の諸伝統を排除することはないのか。こういった基本問題を、各分野の代表的論者が集って話し合う、学術会議ならではのシンポジウムを意図しています。

## 7. 次 第：

司会：納富信留（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）  
上原麻有子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院文学研究科教授）

13:30-13:40 開会挨拶：戸田山和久（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院情報科学研究科教授）

13:40-13:50 趣旨説明（司会：納富信留）

13:50-14:10 報告 1 日本哲学・宗教学「日本の思想伝統のもとで哲学すること」（仮）

氣多雅子（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

14:10-14:30 報告 2 仏教学「仏教から哲学を再構築する」

末木文美士（国際日本文化研究センター名誉教授）

14:30-14:50 報告 3 現代哲学・芸術論「世界哲学と芸術の未来」

永井由佳里（日本学術会議連携会員、北陸先端科学技術大学院大学 理事・副学長）

14:50-15:05 休憩

15:05-15:20 コメント1 西洋哲学 河野哲也（日本学術会議連携会員、立教大学文学部教授）

15:20-15:35 コメント2 中国哲学 中島隆博（日本学術会議連携会員、東京大学東洋文化研究所教授）

15:35-15:50 コメント3 イスラーム哲学 小林春夫（東京学芸大学教育学部教授）

15:50-16:40 ディスカッション

16:40-17:50 議論のまとめ（司会：上原麻有子）

16:50-17:00 閉会挨拶：藤原 聖子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム

「地球環境変動と人間活動

—世界各地で急速に深刻化する地球温暖化の影響と対策—の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
2. 後 援：公益社団法人日本地球惑星科学連合、地理学連携機構、  
日本第四紀学会、公益社団法人 日本地理学会
3. 日 時：令和元年12月21日（土）13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂 他2室
5. 分科会等の開催：開催予定
6. 開催趣旨：地球温暖化による異常気象は既に多くの人々の共通認識になりつつあるが、気候変動の影響範囲は世界各地の気候や植生に具体的な影響を及ぼし始めている。極域や砂漠、高山といった人類生活にとって極限的な環境の地域や、陸と海の境界など縁辺域ではとくに顕著である。こうした影響は一部に留まらず、世界規模の災害や食料問題にも発展する可能性がある。既に現実のものとなりつつある温暖化の様々な問題を総合的に認識し、国際社会における対策の方向性を議論する。
7. 次 第：  
全体司会：山田 育穂（日本学術会議連携会員 中央大学理工学部教授）
- 13：00 開会の挨拶  
平田 直（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）
- 13：05 趣旨説明  
鈴木 康弘（日本学術会議連携会員 名古屋大学減災連携研究センター教授）
- 13：15 海と陸の境界—デルタで何が起きているか  
齋藤 文紀（日本学術会議連携会員 島根大学エスチュアリー研究センター教授）

- 13 : 35 海と陸の境界ーサンゴ礁の消滅問題  
山野 博哉 (国立環境研究所生物・生態系環境研究センター／センター長)
- 13 : 55 海洋生態系に対する脅威と海洋環境の保全  
植松 光夫 (日本学術会議連携会員 東京大学大気海洋研究所  
名誉教授)
- 14 : 15 極域雪氷圏の環境変化ー南極・グリーンランド氷床と山岳氷河の融解  
澤柿 教伸 (法政大学社会学部准教授)
- 14 : 35-14:50 休憩
- 14 : 50 高緯度地域の環境変化ーシベリアとモンゴルの永久凍土の変動  
檜山 哲哉 (名古屋大学宇宙地球環境研究所教授)
- 15 : 10 乾燥地域の環境変化と農牧業ー砂漠化の変遷  
篠田 雅人 (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研  
究科教授)
- 15 : 30 人類世における水問題  
谷口 真人 (日本学術会議連携会員、人間文化研究機構総合  
地球環境学研究所副所長・教授)
- 15 : 50 気候変動と人類  
稲村 哲也 (日本学術会議連携会員、放送大学教授)
- 16 : 10 総合討論  
(司会) 小口 高 (日本学術会議連携会員、東京大学地理空間情報  
センター教授)
- 16 : 50 閉会の挨拶  
奥村 晃史 (日本学術会議連携会員、広島大学大学院文学  
研究科教授)
- 17 : 00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)





公開シンポジウム「第2期を迎えた地方創生と地域学のパースペクティブ」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会地域学分科会
2. 後 援：日本地理学会、人文地理学会、経済地理学会（予定）
3. 日 時：令和元年12月22日（日）13：00～16：30
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会等の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は令和元年度に第1期を終え、令和2年度からは第2期を迎える。地域学は、地域の環境保全と振興の調和のもとに住民の視点から生活の質的向上と安全安心な地域の実現を実証的に研究する複合分野であり、「地方創生」の要請により急速に発展しつつある。「地方創生」は息の長い取り組みである。本シンポジウムでは、第2期を迎えた「地方創生」のあり方について、地域学が有するより幅広い視点から見つめ直すことを目的とする。

7. 次 第：

13：00 開会あいさつ・趣旨説明

松原 宏（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

13：10 地方創生と「地域の学」（仮題）

玄田 有史（東京大学社会科学研究所教授）

14：00－10 （ 休憩 ）

14：10 第2期における地方創生に向けた考え方と取り組み（仮題）

「まち・ひと・しごと創生本部」事務局

14：25 地方創成と『新しい野の学問』

菅 豊（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）

14：40 地域創生関係の競争的事業を経験して研究力、教育力、社会貢献力、事務力はどうか  
変貌したか

水内 俊雄（日本学術会議連携会員、大阪市立大学都市研究プラザ・文学研究科教授）

14：55 地方創生に大学がどう関わるか

曾我 亨（日本学術会議連携会員、弘前大学 副理事・人文社会科学部 教授）

15：10 鳥取大学における地域学の実践と展開－人材育成と地域貢献を中心に－

山下 博樹（日本学術会議連携会員、鳥取大学地域学部教授）

15：25－15：35 （ 休憩 ）

15：35 総合討論

（司会）田原 裕子（日本学術会議連携会員、國學院大學経済学部教授）

中澤 高志（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）

（パネリスト） 松原、玄田、創生本部事務局、菅、水内、曾我、山下

16：25 閉会あいさつ

宮町 良広（日本学術会議連携会員、大分大学経済学部教授）

16：30 閉会

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「国語教育の将来——新学習指導要領を問う」の開催について

1. 主 催：日本学術会議言語・文学委員会古典文化と言語分科会
2. 共 催：日本学術会議言語・文学委員会
3. 日 時：令和元年8月1日（木）13：00～18：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：平成30（2018）年3月、中教審の高大接続システムの提唱に基づき、高等学校国語科の新学習指導要領が告示された。この指導要領は、今後の高校における国語教育の根幹と、大学入試のあり方にかかわるものであり、影響が大きい。本シンポジウムでは、学習指導要領の作成にたずさわった文部科学省、高校教育の関係者、大学において教員養成学部に勤務する者、大学の文学研究者などさまざまな立場のひとが集まって、この問題を議論することを目的とする。

今回の指導要領によって、「現代の国語」と「言語文化」の2科目が必修となり、「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探求」の4科目が選択科目として新設される。選択となる以上、実際の教育現場では時間数の関係で「文学国語」が敬遠されるのではないかという危惧が、関係機関や有識者から表明されている。古典と近代文学を含めて、文学が高校の国語教育において軽視されることにならないか。論理的思考力を涵養するのは確かに国語教育の重要な目的のひとつだが、実用的な文章を読み、分析することがはたしてそれに直結するのか。高校の教育現場では、これまで論理的思考をどのように涵養し、そして今後どのようにそれを教えていくのか。要するに、わが国における国語教育は今後どうあるべきなのか。さまざまな立場の関係者の意見交換を踏まえて、展望を示したい。

## 7. 次 第

総合司会 小倉 孝誠（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学文学部教授）

13：00 開会の辞

松浦 純（日本学術会議第一部会員、東京大学名誉教授） [予定]

13：10 趣旨説明

小倉 孝誠

13：15—15：30 発表

「新学習指導要領における「文学」概念を問う」

安藤 宏（日本学術会議連携会員、東京大学人文社会系研究科教授）

「古典教育の危機を救う」

三宅 晶子（日本学術会議連携会員、奈良大学文学部教授、横浜国立大学教育学部名誉教授）

「なぜ、そしてどう古典を学ぶのか」

渡部 泰明（日本学術会議第一部会員、東京大学人文社会系研究科教授）

（14：15—14：30 休憩）

「高校における『国語』という教科の特性とは何か」

大森 秀治（前灘高等学校教頭）

「高等学校新学習指導要領国語科の目指す授業改善」

大滝 一登（文部科学省初等中等教育局視学官）

15：30—15：45 休憩

15：45—16：30 パネリストによる討論

討論司会 山田 俊治（日本学術会議連携会員、横浜市立大学名誉教授）

16：30—17：50 参加者との質疑応答

17：50—18：00 閉会の辞

吉田 和彦（日本学術会議第一部会員、京都大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「薬剤師が担う日本の医療と薬学教育」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議薬学委員会薬剤師職能とキャリアパス分科会
2. 共 催： 日本薬学会
3. 後 援： 日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会（いずれも予定）
4. 日 時： 令和元年8月3日（土） 13：00～18：00
5. 場 所： 日本薬学会長井記念ホール（東京都渋谷区渋谷2-12-15）
6. 分科会の開催： 開催予定
7. 開催趣旨：

薬学委員会薬剤師職能とキャリアパス分科会では、平成28年10月に公開シンポジウム「専門・認定薬剤師制度の現状と課題」を開催し、150名を超える多くの方々に参加していただき、薬剤師の生涯教育や専門認定制度について貴重な意見交換の機会となった。一方、薬剤師の職能や医薬分業のあり方について、薬学領域のみならず、医療や行政など社会の各方面で様々な議論が繰り広げられている。特に、昨年厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会における議論ととりまとめ、それを受けて今国会に提出中の薬機法等の改正法案、また本年4月2日付の調剤業務のあり方についての厚生労働省医薬・生活衛生局総務課長通知を巡る議論など、薬剤師業務の本質が改めて問われている状況にある。そこで、本分科会では、産学官の関係者が一堂に会して薬剤師のあり方を論ずべく、日本薬学会との共同主催により「薬剤師が担う日本の医療と薬学教育」と題するシンポジウムを企画した。開催日時は、現場の薬剤師が参加できるよう土曜日午後に設定した。

シンポジウム前半では、厚生労働省より今回の薬機法等改正案の趣旨や審議会・国会での審議を通して薬剤師に求められている職能のあり方につき解説いただき、日本薬剤師会をはじめ職能4団体からそれぞれの取組をご紹介いただく。後半は、文部科学省より6年制の薬学教育の今後の方向性を解説いただき、モノから人へと展開する薬剤師の職能に欠かせないコミュニケーション能力や情報処理能力の開発・養成について、それぞれの専門学会から紹介いただく。つづいて、本分科会でこれまで検討してきた専門・認定薬剤師制度のあり方と卒後研修制度のあり方について、報告書の取りまとめに向けた基本的な考え方を紹介いただく。最後に十分な総合討論の時間を取ることで、調剤の

定義を再確認し、薬剤師の職能と教育の方向性についてのコンセンサスの醸成を目指す。本シンポジウムが、医療の担い手たる薬剤師についての認識をさらに深める機会となることを期待している。

## 8. 次 第：

13：00 開会挨拶

望月 眞弓（日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学薬学部特任教授）

高倉 喜信（日本学術会議連携会員、日本薬学会会頭）

講演（座長）橋田 充（日本学術会議連携会員、京都大学高等研究院特定教授）

矢野 育子（日本学術会議連携会員、神戸大学医学部附属病院教授）

13：10 趣旨説明：薬剤師の現状と課題

安原 眞人（日本学術会議連携会員、帝京大学薬学部特任教授）

13：25 薬機法改正とこれからの薬剤師業務

森 和彦（厚生労働省大臣官房審議官（医薬担当））

14：00 改正薬機法への取組

依頼・調整中（日本薬剤師会）

14：15 改正薬機法への取組

依頼・調整中（日本保険薬局協会）

14：30 改正薬機法への取組

中澤 一隆（日本チェーンドラッグストア協会専務理事）

14：45 改正薬機法への取組

木平 健治（日本病院薬剤師会会長）

15：00－15：10 （ 休憩 ）

講演（座長）入江 徹美（日本学術会議連携会員、熊本大学大学院生命科学研究部教授）

堤 康央（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院薬学研究科教授）

15：10 改訂コアカリとこれからの薬学教育

荒木 裕人（文部科学省高等教育局医学教育課企画官）

15：45 薬剤師に求められるコミュニケーション能力

平井 みどり（日本学術会議第二部会員、兵庫県赤十字血液センター所長）

16：00 薬剤師に求められる情報処理能力

林 昌洋（日本医薬品情報学会理事長、虎の門病院薬剤部長）

16：15 学会認定の専門薬剤師制度のあり方

矢野 育子（日本学術会議連携会員、神戸大学医学部附属病院教授）

16：30 卒後研修制度のあり方

橋田 亨（神戸市立医療センター中央市民病院院長補佐・薬剤部長）

16 : 45 総合討論 (座長) 望月 眞弓 (日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学薬学部特任教授)  
安原 眞人 (日本学術会議連携会員、帝京大学薬学部特任教授)

17 : 55 閉会挨拶  
平井 みどり (日本学術会議第二部会員、兵庫県赤十字血液センター所長)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)





公開シンポジウム「フューチャー・デザイン：実践の現場から」の開催について

1. 主 催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所
2. 共 催：高知工科大学経済・マネジメント学群
3. 日 時：令和元年8月7日（水）9：00～17：00（開場8：30）
4. 場 所：高知工科大学永国寺キャンパス地域連携棟多目的ホールもしくは教育研究棟 A214
5. 分科会等の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

少子高齢化、社会インフラの老朽化が進行する一方、公的な財政も逼迫し、私たちは従来のようなサービスを受けることができなくなるかもしれません。

京都府は南部の10の市町に水を供給しています。一方で、これらの市町の人口減少や社会インフラの老朽化、財政の逼迫度合いなどは大きく異なっています。平成30年度において、京都府営水道連絡協議会は、10の市町の水道事業担当課の職員の皆さんを対象にフューチャー・デザイン・セッションを実施しています。これを受けて、長岡京市では独自に「水道事業の未来」を考えるフューチャー・デザイン・セッションを開始しています。他方、希薄になりがちな市民のつながりを求めて、宇治市では「かんがえようこれからの地域の未来」と題するフューチャー・デザイン・ワークショップを開催しています。

以上の＜将来から今を考える＞フューチャー・デザイン・ワークショップでは、＜今から将来を考える＞場合とは全く異なった提案がでています。長野県松本市でフューチャー・デザインを実践されている皆さんと共に、これらの経験を披露し、これからのフューチャー・デザインのあり方を考えるのが＜フューチャー・デザイン：実践の現場から＞です。

7. 次 第：

9：00 趣旨説明 「フューチャー・デザイン× 高知：持続可能な社会のデザイン」西條辰義（日本学術会議第一部会員、総合地球環境学研究所・高知工科大学フューチャー・デザイン研究所教授）

9：15 報告1 京都府営水道連絡協議会フューチャー・デザイン・セッション

9：15～9：55 「仮想将来人になりきって」岸本 悠記（京都府環境部公営企画課）

10：00～10：40 「セッションに参加した皆さんの体験」

加藤雅俊・杉山与和子（長岡京市上下水道部総務課）

10：45 報告2 宇治市・かんがえようこれからの地域の未来・フューチャー・デザイン・ワークショップ

- 10：45～11：25 「市民参加型ワークショップから考える地域コミュニティにおけるフューチャー・デザインの可能性」  
 ※講演者調整中（宇治市市民環境部文化自治振興課）
- 11：30～12：00 「セッションにファシリテーターとして参加した皆さんの体験」  
 勝木 駿（元高知工科大学学生）
- 13：00 報告3 松本市のフューチャー・デザイン
- 13：00～13：40 「新庁舎・中心市街地のあり方の検討状況の報告」  
 山口正裕（松本市政策部政策課）
- 13：45～14：25 「FD の成果を確実なものにするために～職員ファシリテーター養成の試み～」  
 鷺見 真一（特定非営利活動法人 SCOP 理事）
- 14：30～15：00 「演題未定」  
西村 直子（日本学術会議連携会員、信州大学学術研究院社会科学系教授）
- 15：05 報告4 サポーターからみたワークショップ・セッション
- 15：05～15：45 「初めの一步- 行政住民協働 FD コミュニティワークショップの試み」  
 森 正美（京都文教大学総合社会学部副学長）
- 15：50～16：30 「京都府・宇治市・長岡京市におけるフューチャーデザイン・ワークショップの横断的検討」  
 中川 善典（高知工科大学フューチャー・デザイン研究所准教授）
- 16：35 閉会挨拶  
 益田 結花（京都府環境部公営企業管理監兼副部長）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認、第三部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「国立沖縄自然史博物館の実現に向けて：現状と展望」開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同進化学分科会

2. 共 催：一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会

3. 日 時：令和元年8月7日（水）15:00～17:00

4. 場 所：北海道大学高等教育推進機構（北海道札幌市）

5. 分科会の開催：開催予定あり

6. 開催趣旨：

自然史研究は進化学の重要な基盤である。近年の具体的な取り組みの1つである国立沖縄自然史博物館設立活動の現状を紹介し、情報共有および議論を深める場とする。

7. 次第：

15:00-15:05 「開会の辞」

深津 武馬（日本学術会議連携会員・進化学分科会委員長、産業技術総合研究所首席研究員）

15:05-15:35 「国立沖縄自然史博物館の設立活動報告」

岸本 健雄（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学客員教授、東京工業大学名誉教授）

15:35-16:05 「分類学最強説」

馬渡 駿介（北海道大学名誉教授）

16:05-16:35 「自然史博物館の歴史と現代における役割」

松浦 啓一（日本学術会議連携会員、国立科学博物館名誉研究員）

16:35-16:55 総合討論

司会：深津 武馬（日本学術会議連携会員・進化学分科会委員長、産業技術総合研究所首席研究員）

16:55-17:00 「閉会の辞」

斎藤 成也（日本学術会議連携会員・進化学分科会委員、国立遺伝学研究所教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）



公開シンポジウム「Future Earth 時代における地球表層システム科学と防災・減災研究」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会，  
フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
2. 後 援：公益社団法人日本地球惑星科学連合，公益社団法人日本気象学会，日本海洋学会，  
日本大気化学会，文部科学省，大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球  
環境学研究所，国立研究開発法人国立環境研究所（いずれも予定）
3. 日 時：令和元年8月7日（水）10:00～17:00
4. 場 所：日本学術会議講堂

5. 開催趣旨：

「Future Earth (FE)」や「国連の持続可能な開発目標 (SDGs)」に代表されるように、「人類が持続可能で公平な地球社会にて繁栄する」というビジョンの実現に向けて、社会の様々なステークホルダーとの協働・連携が今日の環境研究には不可欠となっている。特にアジアにおいては、大気汚染による健康被害や人口密集地を襲う自然災害など、早期に解決すべき環境問題が深刻化しており、地球表層システム科学研究や気候変動と関連した防災・減災研究のさらなる貢献が必要になっている。そこで、本シンポジウムの第1部では、FE およびそれを支える主な国際プロジェクト (Global Research Projects: GRP) の現状を共有し、GRP 相互間の学術的連携、並びに人文社会科学者や「知と実践のネットワーク (Knowledge-Action Networks: KAN)」との連携を通じて、地球表層システム科学がどのように進化してゆくべきか、将来展望を議論する。続いて第2部では、アジア域に焦点を当て、進行する温暖化に伴う気候変動を背景として深刻化しつつある異常気象、取り分け豪雨災害や水害などに関する最新の知見、並びに防災・減災へ向けての取り組みの現状を共有する。最後に、今後激甚化する自然災害や深刻化する環境変化を踏まえ、「人類が持続可能で公平な地球社会にて繁栄する」ために、今後人類社会がどう対応すべきかを参加者全員で議論する。

6. 次第：

司会：安成哲三（日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所所長）

10:00 開催挨拶 武内和彦（日本学術会議副会長・第二部会員、地球環境戦略研究機関理事  
長）

10:05 来賓挨拶 文部科学省\*（調整中）

10:10 趣旨説明 安成哲三（日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所所長）

第1部：Future Earth 時代における地球表層システム科学研究の新展開

司会：三枝信子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球環境研究セ  
ンターセンター長）

- 10:15 「Future Earth と GRP および KAN の現状」  
春日文子（日本学術会議連携会員、FE 国際本部事務局日本ハブ事務局長、国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー）
- 10:30 「IGAC に関する日本主導の研究」  
谷本浩志（日本学術会議特任連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球環境研究センター室長）
- 10:45 「iLEAPS に関する日本主導の研究」  
 檜山哲哉（名古屋大学宇宙地球環境研究所教授）
- 11:00 「SOLAS に関する日本主導の研究」  
 宮崎雄三（北海道大学低温科学研究所助教）
- 11:15 「GLP に関する日本主導の研究」  
 柴田英昭（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授）
- 11:30 「GRPs-KANs 連携と国-アジア地域センター連携」  
谷口真人（日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所副所長）
- 11:45 コメントと討論  
 コメンテーター 蟹江憲史（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）  
 コメンテーター 高村ゆかり（日本学術会議第一部会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授）

12:15-13:45（休憩）

## 第2部 気候変動と防災・減災研究の新展開

司会：江守正多（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球環境研究センター副センター長）

- 13:45 「変動する大気海洋と異常気象」  
中村 尚（日本学術会議第三部会員、東京大学先端科学技術研究センター教授）
- 14:00 「衛星観測を用いた豪雨形成機構の新たな理解」  
高藪 緑（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所教授）
- 14:15 「気候と社会の変化による風水害の激甚化を乗り越えるために」  
小池俊雄（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センターセンター長）
- 14:30 「気候変動による河川洪水の変化」  
 平林由希子（芝浦工業大学工学部教授）
- 14:45 「適応策としての浄水技術の新展開」  
 小熊久美子（東京大学大学院工学系研究科准教授）
- 15:00 「気候変動影響、適応策と持続可能な開発」  
沖 大幹（日本学術会議連携会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授、国連大学上級副学長）

- 15:15 「IUGG, IAMAS 100周年を記念して：地球科学と大気科学の100年史から見た現代的課題」  
中島映至（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター参与）
- 15:30 コメントと討論  
    コメンテーター 米田雅子（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学先端研究センター特任教授）  
    コメンテーター 西田貴明（京都産業大学生命科学部准教授）
- 15:55-16:05（休憩）
- 16:05 総合討論  
司会：江守正多（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球環境研究センター副センター長）
- 16:55 閉会挨拶 安成哲三（日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所所長）
- 17:00 閉会

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は主催委員会・分科会等委員）





公開シンポジウム「復興の「いま」と「これから」 — 社会的モニタリングと震災アーカイブの役割」の開催について

1. 主催：日本学術会議社会学委員会東日本大震災後の社会的モニタリングと復興の課題検討分科会
2. 共催：東北大学
3. 後援：NHK仙台（予定）
4. 日時：令和元年8月10日（土）11：00～16：30
5. 場所：東北大学さくらホール（宮城県仙台市）
6. 分科会等の開催：開催予定（9日（金）15:00～17:00 東北大学地域イノベーション研究センター）
7. 開催趣旨：復興創成期間の終了を間近に控えて、復興の「いま」と「これから」を見据えた社会的モニタリングをどうおこなうかが大きく問われている。本シンポジウムでは、そうした社会的モニタリングのあり方を、震災アーカイブの「活用」と「利用」をめぐるさまざまな問題状況やそれらに関連する課題群に合せながら多面的に検討する。
8. 次第：
  - （総合司会）岩井紀子（日本学術会議連携会員，大阪商業大学総合経営学部教授）
  - 11：00 開会
    - 挨拶 大野英男（日本学術会議第三部部長・会員、東北大学学長）
  - 11:10 趣旨説明 吉原直樹 本分科会委員長（日本学術会議連携会員，横浜国立大学都市イノベーション研究院教授，東北大学名誉教授）
- 第一部（司会 青柳みどり，日本学術会議特任連携会員，国立環境研究所）
  - 11:15～ 1. 解題——復興を考え続けるための基盤をいかにつくるか
    - 町村敬志（日本学術会議第一部会員，一橋大学社会学研究科教授）

- 11:30～ 2. 復興政策における成果と課題  
岩渕 明（日本学術会議連携会員, 岩手大学学長）
- 11:45～ 3. 復興研究と政策評価・モニタリング：「震災復興研究センター」から  
「みやぎボイス」まで  
増田 聡（日本学術会議連携会員, 東北大学経済学研究科教授）
- 12:00～ 4. 被災地福島の人々の心身の健康状況とその対応について（仮題）  
安村 誠司（日本学術会議第二部会員, 福島県立医科大学医学部教授）
- 12:15～ 5. 被災当事者の声を聞くという課題が先送りされ続けている要因（仮題）  
島菌 進（日本学術会議連携会員, 上智大学実践宗教学研究科教授）
- 12:30～ 6. 福島第一原発事故の被災地問題の推移とその影響  
山下祐介（日本学術会議連携会員, 首都大学東京大学院人文科学研究科  
教授）
- 13:00 - 14:00 休憩

第二部 （司会 町村敬志）

- 14:00～ 討論 玉野和志（日本学術会議連携会員, 首都大学東京大学院人文科学研究科  
教授）
- 14:10～ 討論 山川充夫（日本学術会議連携会員, 福島大学名誉教授）
- 14:20～パネルディスカッション（登壇者全員）
- 16:15 まとめ 吉原直樹

閉会挨拶 岩渕 明

閉会のことば 岩井紀子

16:30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「土と持続可能な開発目標（SDGs）－アフリカの土・市街地の土－」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同  
IUSS 分科会

2. 共 催：一般社団法人日本土壌肥料学会、International Union of Soil Sciences

3. 後 援・協 賛：

後援：農業農村工学会、一般社団法人日本森林学会

協賛：日本農学アカデミー、日本ペドロジー学会、土壌物理学会、日本作物学会、日本熱帯生態学会、森林立地学会、公益社団法人環境科学会、公益社団法人日本農芸化学会、国連大学、土壌微生物学会、日本土壌動物学会

4. 日 時：令和元年9月2日（月）：13時～16時

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

土は多様な動物、植物、微生物の生息する場であり、それらの生物と地表物質の相互作用からできている。そして、私たちの衣食住の多くはこれらの土の産物に依存している。一方、国際連合では2015年の総会で人間、地球及び繁栄のための行動計画として17の目標からなる「持続可能な開発目標（SDGs）」を採択した。そのSDGsには持続可能な農業の促進、陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、土地劣化阻止など、土が広く密接に関係する。このシンポジウムでは、私たちは土をどのように扱えばその機能を良好に利用し続けることができるのか、また、近年の人口の半分以上は市街地に住むようになり市街地の土をどう扱えば良いのか、などについて国内外の研究者の講演を参考に討論を進める。

8. 次 第：

司 会：犬伏和之（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学研究科教授）、  
山本洋子（日本学術会議連携会員、岡山大学名誉教授）

13:00 趣旨説明：南條正巳（日本学術会議第二部会員、東北大学名誉教授）

13:10 基調講演：食糧安全保障強化と気候変動緩和のための持続的土壌管理手法の確立  
(仮題)

ラタン・ラル博士 (第35回日本国際賞受賞、オハイオ州立大学特別荣誉教授  
／炭素管理・隔離研究センターセンター長)

13:40 講演：

1. 都市化が市街地土壌に求める多様な役割

川東正幸 (日本学術会議特任連携会員、首都大学東京都市環境学部准教授)

2. 「土壌」保全農業による持続可能な農業の確立

金子信博 (福島大学農学群教授)

3. 土壌教育の国際標準化 -リオデジャネイロからウィーン・静岡・台北を  
経てグラスゴーに向けた取組と課題-

平井英明 (宇都宮大学農学部教授)

<休憩>

15:20 パネルディスカッション：

上記演者及び 小崎 隆 (日本学術会議連携会員、愛知大学国際コミュニケーション学部教授)、波多野隆介 (日本学術会議特任連携会員、北海道大学農学  
研究院教授)、丹下 健 (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命  
科学教授)、他

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォームの構築 ～どんな基盤をつくり何を目指すか～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会分析化学分科会  
日本学術振興会 計測分析プラットフォーム第 193 委員会  
一般社団法人 日本分析機器工業会  
公益社団法人 日本分析化学会
  2. 日 時：令和元年 9 月 4 日（水） 13：10～17：00
  3. 場 所：幕張メッセ 国際会議場 3 階 303 会議室（JASIS 展併設）  
（千葉県美浜区）
  4. 分科会等の開催：令和元年 9 月 4 日（水） 11：30～12：50 開催予定
  5. 開催趣旨：ビッグデータ・AI 活用の時代を迎えて、計測分析プラットフォームの構築が課題となっている。学術振興会では「計測分析プラットフォーム第 193 委員会」が平成 30 年 4 月に設置され、プラットフォーム構築の議論が進められた。学術会議・分析化学分科会では「最先端分析・計測機器開発センターおよび共同利用プラットフォーム構想」を提案してきている。これらの活動紹介・報告に加えて、最近の研究の動向を紹介し議論する。
  6. 次 第：
    - 13：10 開会挨拶  
竹内 孝江（日本学術会議連携会員、奈良女子大学理学部准教授）
    - 13：15 「最先端計測分析技術開発及び共同運用プラットフォーム」構想について —日本学術会議 分析化学分科会からの提案—  
一村信吾<sup>ab</sup>、谷口 功<sup>a</sup>、佐藤 縁<sup>a</sup>、竹内孝江<sup>a</sup>、栄長泰明<sup>a</sup>、尾嶋正治<sup>a</sup>、齋藤公児<sup>a</sup>、玉田 薫<sup>a</sup>（<sup>a</sup>日本学術会議連携会員、<sup>b</sup>早稲田大学研究戦略センター教授）
- 計測分析プラットフォーム構築に向けて 1：共通基盤からのアプローチ
- 13：35 1-1) 計測分析プラットフォームの共通基盤  
重藤 知夫（国立研究開発法人産業技術総合研究所分析計測標準研究部門主任研究員）

13：50 1-2) 生命科学におけるビッグデータ科学とその課題  
中村 春木 (大阪大学名誉教授)

計測分析プラットフォーム構築に向けて 2：計測インフォマティクスからのアプローチ

14：20 2-1) 計測インフォマティクスへの取り組み  
永富 隆清 (旭化成株式会社基盤技術研究所主幹研究員)

14：35 2-2) 表面科学における計測インフォマティクス  
藤田 大介 (国立研究開発法人物質・材料研究機構先端技術材料  
解析研究拠点拠点長)

15：05-15：25 ( 休憩 )

15：25 2-3) ファシリティプラットフォームの課題と展望  
ー ナノテクノロジープラットフォーム事業をベースとして ー  
田沼 繁夫 (国立研究開発法人物質・材料研究機構分析支援  
ステーションステーション長)

15：55 2-4) AI/Robot を活用した材料開発に向けて  
一杉 太郎 (東京工業大学物質理工学院教授)

16：25 総括質疑  
(司会) 藤本 俊幸 (国立研究開発法人産業技術総合研究所計量標準  
総合センター研究戦略部長)

16：55 閉会挨拶  
鳥山 素弘 (富山県産業技術研究開発センター所長)

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) のためのロバストな農業・食料生産」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同 CIGR 分科会、農業情報システム学分科会、食の安全分科会、国際農業工学会 International Commission of Agricultural and Biosystems Engineering (CIGR, Commission Internationale du Génie Rural), Section VI (Technical Section for Bioprocesses)、農業食料工学会、農業施設学会

2. 日 時：令和 元年 9 月 5 日 (木) 13:50~17:20

3. 場 所：北海道大学 学術交流会館 講堂 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

4. 開催趣旨：

持続可能な開発目標 (SDGs) は、2015 年 9 月の国連サミットで採択された 2016 年から 2030 年までの国際目標である。これは、持続可能な世界を実現するための 17 のゴールと 169 のターゲットから構成され、特に第 2 ゴールの「飢餓をゼロに」を達成するためには、ロバストで (安定した力強い) 強靱な農業・食料生産のシステム構築が不可欠である。

本シンポジウムでは、生産者や食品流通業者、そして消費者や小売業者にわたる情報共有の考え方と仕組み、世界の農業と食料生産の課題と農業工学の役割、および食品ロスと食品廃棄物に着目した食の安全システム、コミュニティベース精密農業についての学術交流を通じて、市民とともに取り組む SDGs の活動進展に資する。

5. 次 第：

総合司会：清水 浩 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授)

13:50-14:00 開会挨拶

石塚真由美 (日本学術会議会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授)

14:00-14:40 基調講演「日本学術会議の SDGs に対する取り組み」

渡辺美代子 (日本学術会議副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事)

座長：安永円理子 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学研究科准教授)

14:40-15:20 「変貌する農業において経済的発展を成し遂げるためのエンジニアリングの果たす役割－国際的展望」

Umezuruike Linus Opara, 国際農業工学会 (CIGR) 会長, ステレンボッシュ大学, 南アフリカ

座長：小川幸春 (CIGR Section VI 委員, 千葉大学大学院園芸学研究科准教授)

15:20-15:40 休憩

15:40-16:20 「国際連合食糧農業機関(FAO)と世界の食の安全ー食品ロスと食品廃棄物に着目して」

講演者：Charles Boliko, FAO 日本リエゾンオフィス代表

座長：川村周三（日本学術会議連携会員，北海道大学大学院農学研究院研究員）

16:20-17:00 「コミュニティベース精密農業の試み」

澁澤 栄（日本学術会議会員，東京農工大学卓越リーダ養成機構特任教授）

座長：近藤 直（農業食料工学会会長，京都大学大学院農学研究科教授）

17:00-17:20 閉会挨拶

野口 伸（日本学術会議連携会員，北海道大学大学院農学研究院教授）

6. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）



東北地区会議公開学術講演会  
「超高齢社会における看取りを考える（仮題）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議東北地区会議
2. 共 催：特定非営利活動法人福島県緩和ケア支援ネットワーク（予定）
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和元年9月15日（日）13：30 ～ 16：45（予定）
5. 場 所： コラッセふくしま  
（福島県福島市三河南町1番20号）
6. 開催趣旨： 日本では、2015（平成27）年の年間の総死亡者数（約129万人）のうち、65歳以上の高齢者の死亡者数（約115万人）の割合は88.9%にのぼり、後期高齢者（75歳以上）の死亡者数（約94.5万人）の割合も73.2%に上る。「老老介護」がむしろ特別でなくなった日本の高齢化はさらに進行することが予想されており、看取りのあり方は国民全体の課題と言える。  
本企画は、超高齢社会となった日本における望ましい看取りのあり方を、多面的に議論することが目的である。また、日本学術会議として今後この問題にどのように取り組んでいくかを、参加者とともに考えたい。
7. 次 第：
  - (1) 開会挨拶
    - ・渡辺 美代子（日本学術会議副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）
    - ・厨川 常元（日本学術会議第三部会員、東北地区会議代表幹事、東北大学大学院医工学研究科長・教授）
  - (2) 講演
    - ①鈴木 雅夫（ふくしま在宅緩和ケアクリニック 院長、特定非営利活動法人福島県緩和ケア支援ネットワーク 理事長）  
「地域における看取りの実態」（仮題）
    - ②高橋 悦堂（北海道東北臨床宗教師会 事務局長、栗原市普門寺 副住職）  
「臨床宗教師の役割とは」（仮題）
    - ③玉井 照枝（ケア・カフェせんだい 代表）  
「看護系・社会福祉系からの看取りへのアプローチ」（仮題）
    - ④吉澤 誠（東北大学 総長特別補佐（社会連携担当））  
「工学系からの看取りへのアプローチ」（仮題）

(3) 質疑応答

(4) 閉会挨拶

- ・竹之下 誠一（福島県立医科大学理事長兼学長）（予定）

司会進行

- ・安村 誠司（日本学術会議第二部会員、  
福島県立医科大学理事・副学長、医学部教授）

（下線の講演者等は、主催する地区会議所属の会員）

公開シンポジウム「SCOR-海洋学会合同シンポジウム「日本の海洋科学：現在と将来」」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR 分科会

2. 共 催：日本海洋学会

3. 日 時：令和元年 9 月 2 5 日（水）13：30 ～ 17：10

4. 場 所：富山国際会議場

5. 開催趣旨：

Scientific Committee on Oceanic Research (SCOR) は国際学術会議 (ISC) の下で海洋科学に関する様々な研究活動をサポートする国際機関であり、今年の年会 (9 月 23 日～25 日) が富山で海洋学会 (9 月 25 日～29 日) の直前に開かれる。この機会を利用し、SCOR 国内委員会と海洋学会との共催で半日のシンポジウムを開催し、日本の海洋科学の現状と成果を加盟各国の SCOR 委員等に紹介するとともに、海洋学会員に SCOR の活動や日本との関係を知っていただき、SCOR と海洋学会との連携を強化する。

6. 次 第：

13：30 開会あいさつ

張 勁 (日本学術会議連携会員、SCOR 副議長、富山大学大学院理工学研究部教授)

神田 穰太 (日本海洋学会会長、東京海洋大学副学長・大学院海洋科学技術研究科教授)

13：40 SCOR と日本の海洋研究

山形 俊男 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構特任上席研究員、京都大学特任教授、東京大学名誉教授)

14：00 日本の代表的な海洋研究機関の紹介

神田 穰太 (日本海洋学会会長、東京海洋大学副学長・大学院海洋科学技術研究科教授)

14：20 質疑応答

14：30 GEOTRACES

小畑 元 (東京大学大気海洋研究所教授)

- 14 : 50 SIMSEA  
森岡 優志 (国立研究開発法人海洋研究開発機構研究員)
- 15 : 10-15 : 25 ( 休憩 )
- 15 : 25 II0E-2  
升本 順夫 (日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院理学系  
研究科教授)
- 15 : 45 ワーキンググループ関連話題提供 (物理関連)  
内田 裕 (国立研究開発法人海洋研究開発機構主任技術研究員)
- 16 : 05 ワーキンググループ関連話題提供 (化学関連)  
青山 道夫 (日本学術会議特任連携会員、筑波大学客員教授)
- 16 : 25 ワーキンググループ関連話題提供 (生物関連)  
千葉 早苗 (国立研究開発法人海洋研究開発機構主任研究員)
- 16 : 45 SCOR からのフィードバック  
Marie-Alexandrine Sicre (SCOR 議長、Centre National de la  
Recherche Scientifique、Directrice de Recherche)
- 17 : 00 閉会あいさつ  
蒲生 俊敬 (日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所特  
任研究員)

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催委員会 (分科会) 委員)

公開シンポジウム「林業と建築における木材利用 ―川上から川下までの現状と課題―」  
開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会林学分科会
2. 共 催：未定
3. 後 援：(一社) 日本木材学会
4. 日 時：令和元 9 月 3 0 日 (月) 1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：あり

7. 開催趣旨：

戦後植林した日本の人工林は収穫期を迎えている。利用可能な木材資源は利用し、さらに植林といった循環が重要であり、利用先の主たる建築分野においては、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」や、近年の防火規定関係の緩和などの法令改正により、木材利用のしやすい環境への整備を進めている。これらの環境整備は、政治主導だが、背景には学術的な検討があり、その結果としての政策でもある。

また、古い体質であった国産材の利用に関連する分野、例えば林業、製材業、建設業も転換を迫られており、地方創生や産業創出ということばで、新たな展開がはかられている。これらの展開は日本の独自の問題、特異性というわけではなく、海外においても同様に法令改正が進められ、さらに各産業で AI などを利用した革新が図られている。

本シンポジウムでは、木材利用を取り巻く、環境の現状を整理するとともに今後の課題を整理し、木材利用の国策と今後の学術活動のあり方について議論する場としたい。

8. 次 第：(予定)

13:00 開会挨拶

丹下 健 (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

13:05 趣旨説明

五十田 博 (日本学術会議特任連携会員、京都大学生存圏研究所教授)

13:15 講演

森林・林業・木材利用の現状と課題

鮫島 正浩 (日本学術会議連携会員、信州大学工学部教授)

中層大規模時代の木材利用、品質確保

青木 謙治（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

海外の中高大規模建築物と日本における課題

五十田 博（日本学術会議特任連携会員、京都大学生存圏研究所教授）

実務からみた中高層建築物の可能性と木材利用の課題

貞広 修（日本建築構造技術者協会木質系部会主査、清水建設設計本部上席設計長）

<休憩>

15:40

総合討論

「今後の建築分野での木材利用に向けて（仮）」

司会：杉山 淳司（日本学術会議連携会員、京都大学生存圏研究所教授）

16:50 閉会挨拶

川井 秀一（日本学術会議連携会員、京都大学生存圏研究所特任教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「翻訳における文化—世界歴史・世界文化・世界社会—  
飯）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第一部、ドイツ研究振興協会（DFG）

2. 後 援：検討中

3. 日 時：令和元年10月10日（木）9：30～17：30  
10月11日（金）10：00～13：00

4. 場 所：東京大学伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール

5. 開催趣旨：

2017年11月に開催した日独合同DFGシンポジウム（日本学術会議後援）を受け継ぎ、両国の人文・社会科学系研究者の対話を深める。初日午前中は、人文・社会科学をめぐる学術政策に関するラウンドテーブル、午後・二日目は研究交流のためのパネル・ディスカッションを行う。後者においては、（2017年は社会科学を対象としたのに対し）言葉の壁により国外ではほとんど知られていない日本の人文学を翻訳により紹介していくことを目指す。テーマは、グローバル化とそれに結びつく広義のトランスカルチャリティの過程であり、次の3つの問いをめぐって展開される。

- ・現在、世界の歴史、世界の文学、世界の社会について、どの程度のことを、どのような意味で語るができるか。
- ・現在のトランスカルチャリティはどのようにつくられ、とくに世界の歴史、世界の文学、世界の社会の中のどこにそれが見られるか。
- ・トランスカルチャリティ、世界の歴史、世界の文化、世界の社会との接し方において、日本とドイツにはどのような類似性が見られるか。

6. 次 第：

10月10日

司会：藤原聖子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

9：30 開会挨拶：佐藤岩夫（日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授）

9：45 基調講演：P・シュトローシュナイダー（DFG会長）

10：15

ラウンドテーブル 日独の人文・社会科学振興策 現状と課題

井野瀬久美恵（日本学術会議連携会員、甲南大学文学部教授）

吉見俊哉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環教授）

J・グリーム（DFG副会長）

（1名未定）

12：30 昼食

13 : 30

パネル・ディスカッション (1)

「普遍化と特殊化のトランスカルチャー的融合における世界秩序」

司会：ナディン・ヘー (ベルリン自由大学准教授)

ダニエル・ヘディングー (ミュンヘン大学講師)

マデレーヌ・ヘレン＝エッシュ (バーゼル大学教授)

飯島 真理子 (上智大学外国語学部准教授)

(1名 未定)

15 : 30

パネル・ディスカッション (2)

「今日の世界文学：異文化間で書く」

司会：ヘンリーケ・シュタール (トリア大学教授)

リューディガー・ツイマー (ヴッパータール大学教授)

ハイケ・パウル (エアランゲン＝ニュルンベルク大学教授)

沼野充義 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科)

小野正嗣 (立教大学文学部准教授)

10 月 11 日

10 : 00

パネル・ディスカッション (3)

「世界社会のコミュニケーション条件：グローバルカテゴリーと文化的翻訳」

司会：クリストフ・クライネ (ライプチヒ大学教授)

モニカ・ヴォールラプ＝ザール (ライプチヒ大学教授)

森川剛光 (慶応大学文学部教授)

島田信吾 (デュッセルドルフ大学教授)

ルドルフ・シュティヒヴェー (ボン大学教授)

ドリス・バッハマン＝メディック (ギーゼン大学、シニアリサーチフェロー)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の講演者は、主催第一部会員)



公開シンポジウム「第11回形態科学シンポジウム：生命科学の魅力を語る  
 高校生のための集い」の開催について

1. 主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会
2. 後援：日本細胞生物学会、日本解剖学会、日本顕微鏡学会、日本組織細胞化学会
3. 日時：令和元年10月22日（火）（祝日）13:30～17:30
4. 場所：北海道大学医学部学友会館フラテホール（札幌市北区北15条西7丁目）
5. 分科会の開催：開催予定（12:30～13:30）

6.

開催趣旨：

生命科学研究に関心を持つ高校生に呼びかけ、生命科学研究の最前線を分かりやすく解説する。また第一線の研究者と高校生が気軽に語り合う場を設け、将来の生命科学研究を担う人材の啓発に資するものとしたい。

7. 次第：(予定)

13:30 開会挨拶

岡部繁男（日本学術会議第二部会員、東京大学医学系研究科教授）

13:35 講演会

司会：西真弓（日本学術会議連携会員、奈良県立医科大学教授）

講演1

「傷ついた神経はなぜ再生しないのか」

門松健治（日本学術会議連携会員、名古屋大学医学系研究科教授）

講演2

司会：米田悦啓（日本学術会議連携会員、大阪大学名誉教授、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所理事長）

「体を作って守る上皮細胞のタイトジャンクション」

月田早智子（日本学術会議連携会員、大阪大学生命機能研究科特任教授・帝京大学教授）

15:30 交流会

司会：渡辺雅彦（日本学術会議連携会員、北海道大学医学研究院教授）

17:30 閉会の挨拶

菊池章（日本学術会議連携会員、大阪大学医学系研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）